

第27回： 水道水源の水質保全をめぐる研究と対策

開催日： 1995年9月7日～8日 / 会場： 「きゅりあん」東京都

開催趣旨： 飲み水に対する市民の不安と不満が高まる中で、平成4年12月に水道法の水質基準が全面的に改則され平成5年12月より施行されました。このより厳しい水質基準のために、これまで以上の水道水源の水質保全対策が求められています。

これを受け、厚生省では「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律案」、環境庁では「特定水道利水障害の防止のための水道水源水域の水質の保全に関する特別措置法案」が作成され、それぞれ平成6年5月に施行されました。また、平成7年度にはトリハロメタン生成能による規制が実施される予定があります。

本セミナーは、これらの法案の要点とねらいを明らかにし、水道水源の水質保全をめぐる問題点においてとくに重要と思われる研究と対策に関する解説を加え、これら諸問題への理解を深めることを目的に企画いたしました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律」について（早川哲夫／厚生省生活衛生局水道環境部）
- 「特定水道利水障害の防止のための水道水源水域の水質の保全に関する特別措置法」及びトリハロメタン生成能に関する基準について（牛谷勝則／環境庁水質保全局水質規制課）
- 水道水中化学物質の安全性評価方法（浦野紘平／横浜国立大学工学部）
- 水道水の塩素処理と消毒副生成物（相沢貴子／国立公衆衛生院）
- 自治体による水道水源水質保全対策（牧幸男／長野県生活環境部）
- 地下水の硝酸性窒素汚染の現状と対策（田瀬則雄／筑波大学地球科学系）
- 廃棄物処理と水道水源汚染（中杉修身／国立環境研究所）
- 水道事業における水質改善対策と課題（梶野勝司／大阪市水道局）
- 水道水源流域における化学物質の発生源と流達（岡田光正／広島大学工学部）